

JICA中国事務所ニュース

- ☆ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ☆ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ☆ サーチナJICAページ <http://searchina.ne.jp/jica>

2013年1月号



目次

■ トピックス

- ◎ 日本・中国・ASEANの開発経験を共有 ……2

■ ニュース

- ◎ 高齢化分野における日中協力 ……3
～中国政府視察団による、草の根協力事業の現場訪問～
- ◎ 「林下経済」と「林業专业合作社」に関するセミナー ……4
- ◎ 日本のリハビリ医療の普及 ……4
～桂林市リハビリ医療センター人材育成支援プロジェクト～
- ◎ 長期研修員による帰国報告会 ……5
- ◎ 「日中友好音声作品スタジオ」の除幕式 ……5

■ CHINA COOL

- 銀行紙幣、硬貨の見分けカード ……6

■ 赴帰任者紹介

……6

独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大厦400号室

郵便番号: 100004

電話: +86-10-6590-9250、FAX: +86-10-6590-9260

ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで

編集担当: shenxiaojing.cn@jica.go.jp

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

日本・中国・ASEANの開発経験を共有



第3回アジア・グリーン経済政策研修



第3回アジア・グリーン経済政策研修
(シーサンバナナの植物園を視察)



第18回大メコン圏地域（GMS）閣僚会合

■ 環境分野における日中協力第三国研修

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/31.html>

■ 関連記事

中国事務所ニュース2011年1月号

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201101/01.html>

中国事務所ニュース2012年12月号

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201212/02.html#a02>

東南アジア諸国連合（ASEAN）は、域内10ヶ国で構成する地域協力機構。2015年末をターゲットに、安全保障、経済、社会文化分野における共同体形成や、域内の開発格差是正に取り組んでいます。ASEANは、日本や中国など周辺国との関係強化も進めており、昨年11月には、東アジア16ヶ国の中で「東アジア地域包括的経済連携」の交渉開始が合意されました。これが実現すれば、GDP約20兆ドル（世界全体の約3割に相当）の経済圏が出現するともいわれています。

2013年は、日・ASEAN友好協力40周年。JICAは、ASEAN諸国における格差是正、域内共通課題、地球規模課題への対処を支援するために、インフラ・制度の整備や人的ネットワークの側面から、ASEAN共同体形成に協力しています。併せて、日本とメコン地域の首脳会議で合意された「グリーン・メコンに向けた10年イニシアティブ」の実施も推進しています。

他方中国は、第12次5か年計画において、広西チワン族自治区を「ASEAN協力の新高地」、雲南省を「西南開放の重要な橋頭堡」と位置づけ、中国西部地域開発の観点からもASEAN協力を重視しています。また「大メコン圏（GMS）協力」のメンバーとして、広西チワン族自治区、雲南省を含むメコン地域の開発協力を推進しており、昨年12月には広西チワン族自治区において第18回GMS閣僚会合を主催しました（JICAは開発パートナーとして同会議に参加し、本地域への協力概要を紹介しています）。

こうした背景を踏まえ、JICA中国事務所は、日本・中国・ASEAN諸国の開発経験や知見の共有を促進しています。例えば環境分野では、JICAと中国環境保護部の「中国ASEAN環境保護協力センター」との共催で、2010年以降、3回に亘ってASEAN諸国を対象とした「アジア・グリーン経済政策研修」を実施しました。昨年12月には、雲南省で「生物多様性の保全と持続可能な成長」をテーマに第3回目の研修を実施しました。東アジア・東南アジア各国は共通して、急速な工業化・都市化と、生物多様性保全の両立という問題に直面しています。研修にはASEANの7か国の環境保全部局の幹部14名が参加し、日本外務省や在中国日本大使館、JICA、中国ASEAN環境保護協力センター、中国輸出入銀行による講義や、現地視察を通じて、日中の環境政策やASEAN協力政策について理解を深めました。

また保健分野では、2011年11月に行われた東アジア首脳会議のフォローアップとして、昨年11月に広西チワン族自治区で開催された「アジア・環太平洋保健人材フォーラム」において、JICA「家庭保健を通じた感染症予防等健康教育強化プロジェクト」の家保英隆専門家が、日本の保健人材の現状及びその課題に関して発表しました。アジア諸国から参加した専門家は、保健人材の質向上や医療の地域間格差等の課題に直面しており、これらの対応策を検討する上で有益な、日本の経験に関する情報を提供しました。

日本・中国・ASEAN域内諸国が経験した課題とそれへの対応は、域内の他の国にとっても有用な知見となります。JICAは今後、対中国協力事業の成果や、中国の政府機関や研究機関とのネットワークを活用し、東アジア域内の開発経験や知見の共有を促進し、ASEAN諸国の持続的発展や域内格差是正に貢献して行きます。

（竹原成悦）

高齢化分野における日中協力

～中国政府視察団による、草の根協力事業の現場訪問～



デイサービスセンターの様子



家庭的に内装された社会福利院の部屋

2012年12月18日～19日、科学技術部、全国老齡工作委員会弁公室、民政部による中国政府視察団が、「上海医療福祉関係人材養成事業（JICA草の根技術協力）」の現場を視察しました。高齢化分野における今後の日中協力可能性の検討に際し、これまでの協力の経験や成果を把握することが今回の訪問の目的です。

上海市民政局からは、本事業の日本側実施機関である社会福祉法人旭川荘の協力で実施した訪日研修の成果が報告されました。日本の福祉・介護制度は、医療と福祉が結合している点や、サービスのきめ細やかさ、介護人材の高度な専門性等が特徴的です。上海では、この研修で学んだことを活かして、色彩心理学に基づいた廊下や部屋の色の塗り直し、“高齢者本位”の意識の浸透、家庭に近い雰囲気づくり等の取り組み等が、実際に行われています。

上海は60歳以上の高齢者人口が24.5%にのぼり、中国国内で最も割合の高い都市として、市政府は各国の経験を取り入れながら、高齢化対策に取り組んでいます。今回の視察では、「徐匯区湖南社区デイサービスセンター」と「第一社会福利院」を訪れました。前者は“社区（地域コミュニティ）養老”の施設であり、政府が出資・管理し、民間に委託経営しているデイサービスセンターです。高齢者は、僅かな費用で、食事や理髪、マッサージや運動・健康指導等の多様なサービスを受けることができます。同センターのスタッフは、NPO法人日本心身機能活性療法指導士会から介護予防体操の指導を受けており、週に2回、実際に高齢者に体操を教えています。また後者は、“施設養老”と呼ばれる政府経営の養老施設であり、ここでも訪日研修の成果を活かして改善された施設やサービスを実際に見ることが出来ます。

■ 上海医療福祉関係人材養成事業

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/chi_12.html

■ 関連記事

現地報道（中国語）

<http://mzj.sh.gov.cn/gb/shmzj/node4/node10/node1559/u1ai34638.html>

中国では、60歳以上の高齢者が全人口の13.7%を占め、1.85億人に達しており（2011年）、毎年860万人のスピードで増加することが見込まれています。中国政府が公布した「老齡事業発展第12次5か年計画」では、2015年をターゲットとして、養老ベッド数の倍増や、都市社区の80%、農村社区の50%において養老機能のあるサービスセンターを建設すること等が目標として掲げられており、中国各地で、これらハード面の整備が急ピッチで進められています。一方で、基準やマニュアルの制定、施設の運営管理、人材育成やサービス充実等、ソフト面の整備が、引き続き課題となっています。

今回の視察を通じて、中国における高齢化の課題や日中協力の可能性について、熱心な議論がなされました。上海において日本の経験が活かされているように、今後、日本の有益な技術やグッドプラクティスが、中国に浸透して行くよう、引き続き、JICAは中国側との意見交換を続けていきます。

（鮑迪娜）

「林下経済」と「林業專業合作社」に関するセミナー



浦北県永興養殖專業合作社の
養鶏場

■ 中国西部地区林業人材育成プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/002/index.html>

2012年12月12～13日、JICAは、広西チワン族自治区南寧市において、「中国西部地区林下経済と林業專業合作社セミナー」を実施しました。JICA「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」の一環で開催された本セミナーには、14市・省・自治区の林業関係者や日本人専門家など70名以上が参加しました。

林下経済（アグロフォレストリー）とは、林業を中心とした経済活動を指し、樹木を植栽して、その樹間で家畜・農作物を育てる農林業です。また林業專業合作社は、日本の森林組合に近く、林業を中心とした経済活動を効率的に行う上で不可欠です。

今回のセミナーでは、国家林業局農村林業改革發展司の江機生副司長による林業專業合作社の政策・現状に関する発表、北海道水産林務部の本間俊明氏による北海道における森林組合制度と管理についての報告、林業專業合作社からの具体的な事例発表を踏まえ、中国西部地区の林下経済と林業專業合作社の發展に必要な課題について討論しました。

また、特に活発に林下栽培や養殖が行われている浦北県の林業專業合作社を視察し、合作社経営者の熱意に触れるとともに、参加者は、現地の資源を十分活用することが合作社を經營する際に重要であることを学びました。

今回のセミナーは、共通した課題を抱える各地域の林業関係者が一堂に会し、意見交換を行う貴重な機会となりました。関係者が引き続き交流を深めて行くことで、西部地区における林下経済の更なる發展が期待されます。

（李飛雪）

日本のリハビリ医療の普及

～桂林市リハビリ医療センター人材育成支援プロジェクト～



■ 中国の桂林市リハビリ医療センター人材育成支援プロジェクト

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/chiiki/chi_32.html

■ 関連記事

現地報道（中国語）

<http://www.glkj.gov.cn/news/kjdt/2012/12/2701.htm>

桂林市政府（中国語）

<http://zwgk.guilin.gov.cn/kjzl/default.aspx?id=304872>

中国では最近、医療サービス環境の改善により、救急医療システムが整えられ、脳卒中等の心血管疾患患者の命が救われるようになってきました。しかし、リハビリ医療や社会福祉システムが未熟なことから、命を取り留めた患者が、治癒後の自立した生活や社会への復帰ができず、本人および家族の生活の質の低下を招くなど、問題は深刻です。

広西チワン族自治区桂林市では、桂林市中医院と熊本大学が協力して、2010年から3年間にわたって「中国の桂林市リハビリ医療センター人材育成支援プロジェクト（JICA草の根技術協力）」が展開されました。本事業の活動期間終了を控え、2012年12月25～30日、JICAは本事業の成果を確認するための調査を実施しました。

熊本大学は、本事業を通じて、桂林市中医院に対して、日本の保健・医療・福祉の連携制度や健康な地域社会を実現するための情報と経験を提供したほか、リハビリ医療の専門家を派遣し、現場指導とセミナーを通じた啓発教育を行いました。この他、熊本大学医学部と熊本機能病院等の医療機関では、桂林市からリハビリ医療スタッフを受け入れ研修を実施しました。研修員たちは、帰国後、新しいリハビリ医療の理念と技術を持つリハビリ人材として、桂林市中医院リハビリセンターでリーダーシップを取りながら活躍しています。また、桂林市中医院リハビリセンターでは、桂林市衛生局の支持を得て、本プロジェクトの協力成果を踏まえた大改造を行っています。

桂林市と熊本市は姉妹都市であり、30年以上にわたって友好交流が行われています。本プロジェクトは、熊本市リハビリ関連機関と桂林市中医院の友好交流の基礎となりましたが、事業終了後も交流は続きます。中国におけるリハビリ医療の普及に関して、今後同病院がモデルとなって行くことが期待されています。

（周迎）

長期研修員による帰国報告会



■ JICA長期研修員同窓会ホームページ

<http://www.jica-alumni.com/>

■ 関連記事

中国事務所ニュース2012年4月号

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201204/01.html>

2012年12月21日、JICAは、北京において「JICA長期研修員帰国報告会」を開催し、帰国長期研修員のほか、中国科学技術部、日本大使館、日中友好環境保全センター、中国建築標準設計研究院の関係者等、約30名が出席しました。今回は、日本の学位を取得するために日本で研修をした4名が、研修成果と帰国後の活動計画を報告しました。

北京農村部世帯のエネルギー消費状況を検証し、経済レベルとエネルギー消費状況の関係性を分析した、北京持続発展促進会の張静超研修員は、今も研修受入先の日本国際大学と連携を続けています。日中友好環境保全センターの張磊研修員は、日本の先進的な実験設備を利用した研究実験や環境関連施設の見学等を通じて視野を広げ、中国における健康影響評価を研究しました。帰国後は中国の環境政策の策定に携わる予定です。中国建築標準設計研究院の鄧烜研修員は、日本でしか経験できない大型建築耐震実験に参加して耐震建築研究の世界の最新動向を学び、鉄筋コンクリート建物の耐震技術を研究しました。科学技術部の戴楽研修員は、観光産業が途上国の貧困削減に及ぼす影響を定量分析し観光産業の将来性を検証、今後国際交流業務に携わる予定です。4名とも、日本での充実した研究生活を振り返るとともに、将来への期待を語りました。

のべ100名にのぼるJICAの帰国研修員は、現在も様々な分野で活躍しており、いずれも各分野で重要な役割を担う中核的な人材となることが見込まれています。中国の国づくりへの貢献はもちろん、日中両国の架け橋として活躍することが期待されます。

(丁莉)

「日中友好音声作品スタジオ」の除幕式

2012年11月28日、北京市のNGO「北京紅丹丹教育文化交流センター（以下「紅丹丹）」において、「日中友好音声作品スタジオ」の除幕式が行われ、JICAもこれに出席しました。

この音声スタジオは、同NGOが運営する「心目音声図書室」をベースに、在中国日本国大使館の草の根文化無償資金協力を活用して、音声図書の収録効率向上を目指すもので、今後3年間で、蔵書を千冊以上に拡充し、約10万人の視覚障害者に関連サービスを提供する計画です。

本件の実施の背景には、2008年にJICAが中国国際民間組織合作促進会と共催した「日中NGOシンポジウム」における、紅丹丹と「日本点字図書館」との出会いがありました。紅丹丹は、日本最大の視覚障害者用図書館である日本点字図書館の協力を得て、「視覚障害者音声情報提供指導事業（JICA草の根技術協力）（2009年～2011年）」を実施し、映画やテレビの副音声製作技術、音雑誌製作技術、障害者向けラジオ番組製作技術等について学びました。視覚障害者のメディアアクセス環境改善に必要なこれらの人材育成の成果が、今回の取り組みの基礎となっています。

(李瑾)



■ 関連記事

日本大使館

http://www.cn.emb-japan.go.jp/oda_j/oda121128_j.htm

人民網

http://www.peoplechina.com.cn/xinwen/txt/2011-04/01/content_348832.htm

JICA's World 2010年11月号

<http://www.jica.go.jp/publication/j-world/1011/pdf/05.pdf#search='%E7%B4%85%E4%B8%B9%E4%B8%B9+%E7%82%B9%E5%AD%97%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8>

CHINA COOL

銀行紙幣、硬貨の見分けカード

日々の生活に必要な買い物や銀行でのお金の受け渡し。健常者にとっては特に意識をすることはないかも知れませんが、視覚障害者にとってどのようなものであるか考えたことはありませんか？指先だけで紙幣や硬貨の額面を区別するのは容易なことではありません。中国の紙幣にも日本と同様に点字が振られていますが、紙幣が古くなると点字が薄れてしまい、識別が難しくなります。



北京の観光地「恭王府」の触図ガイドブック

最近、中国の一部銀行が、視覚障害者向けに、写真のようなカードを無料で配布し始めました。100元紙幣と同じ大きさのこのカードは、折り畳むことが可能で、財布に入れて持ち歩くことが出来ます。カード左側の階段のような部分を使うと、各紙幣の大きさが違うことを利用して金額を識別することが出来ます。上部の四角い穴は、それぞれの幅が、各硬貨の直径と一致しているため、硬貨を識別することが出来ます。また、右側にある大きな四角い窓は、銀行帳票上のサイン箇所を示しています。銀行帳票にこの型を当てて、適切な箇所に署名することが出来るのです。

このカード、実は日本の経験に学んで作られています。中国でこのカードの制作に協力したNGO「紅丹丹教育文化交流センター」が、JICAが中国国際民間組織合作促進会と共催した「日中NGOシンポジウム」（2008年）で出会った「日本点字図書館」と交流する中で学んだものです。

自分自身でお金を支払えるようになることで、視覚障害者の更なる社会活動への参与が期待できます。最近では、公園等でも視覚障害者用に触覚で認識するマップが作られるなど、より多くの人が豊かな生活を送るための工夫が重ねられています。

(周迎)

赴帰任者紹介

◆長期専門家

帰任	大西満信	四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト	2010年2月～2013年1月
帰任	吉本美紀	家庭保健を通じた感染症予防等健康教育強化プロジェクト	2011年1月～2013年1月
赴任	佐藤隆	四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト	2013年1月～
赴任	藤本美智子	家庭保健を通じた感染症予防等健康教育強化プロジェクト	2013年1月～
赴任	岸川正次郎	労働保障監察プロジェクト	2013年1月～

◆青年海外協力隊

帰任	安達まみ	理学療法士	河北省石家庄市	河北医科大学第三病院	2011年1月～2013年1月
	上田潤子	日本語教師	湖北省武漢市	武漢市財貿学校	2011年1月～2013年1月
	岡田麻衣	日本語教師	江西省南昌市	江西青年職業学院	2011年1月～2013年1月
	小田有希子	作業療法士	山東省威海市	威海市立病院	2011年1月～2013年1月
	門脇亮太	野球	重慶市	南開中学	2011年1月～2013年1月
	志賀隆昌	日本語教師	青海省西寧市	西寧衛生職業技術学校	2011年1月～2013年1月
	田中志帆	作業療法士	河北省石家庄市	河北医科大学第三病院	2011年1月～2013年1月
赴任	淵彩香	理学療法士	広西チワン族自治区桂林市	桂林市中医病院	2013年1月～
	宮崎さとみ	日本語教師	湖北省武漢市	武漢市実験外国語学校	2013年1月～

◆シニア海外ボランティア

帰任	渡辺良康	日本語教育	北京市	人民教育出版社	2010年10月～2013年1月
赴任	清水昭子	日本語教育	北京市	人民教育出版社	2013年1月～